

# ～健口と輝く笑顔のために～

# 歯科衛生だより会報

**2024 February vol.79**

発行人／吉田直美 発行／公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19  
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

## 年頭所感

会員の皆様に、謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症による社会的、経済的制限がすべて解除され、歯科医療をめぐる環境もコロナ禍前の状況に復活し、会員の皆様も開放感のなかで新年を迎えたのではないでしょうか。昨年は静岡で日本歯科衛生学会（日衛学会）学術大会を4年ぶりに集合型で開催することができ、1600名近くの現地参加者を得て、盛会裡に終えることができました。あいにくの天候で富士山は美しい姿を見せてはくれませんでしたが、会員の皆様も人々の対面での交流に楽しい時間を過ごされたことと拝察いたします。私自身も、会長に就任以降、初めて学会やブロック協議会などで、現地にうかがってそれぞれの地域ならではの雰囲気や自然を感じ、直接意見交換をするなかで、皆様との距離を縮めることができたと感じています。昨年6月から新役員体制でスタートしておりますが、まだまだ行き届かない点も多いかと思います。皆様への情報発信やご意見の収集をより活発にし、風通しのよい執行部で歩みを進めていく所存ですので、本年も皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

公益社団法人 日本歯科衛生士会  
会長 吉田直美



## 【人材確保の課題】

歯科衛生士不足が長年常態化しており、対策として都道府県歯科衛生士会では復職支援・離職防止事業に継続的に取り組んでいただいている。しかし、本会の調査では、人員・予算不足の問題から事業実施が困難な会が多い状況が見受けられます。そこで、近年リアリティショックによる新人歯科衛生士の早期離職が多いことをふまえ、昨年全国的な新人研修制度の導入を厚生労働省に要望いたしました。その実施にあたっては、本会で検討を始めていたり研修で修得すべき臨床能力と研修プログラムを利用することをあわせて要望しております。今年は、本会で検討中の新人研修について、全国的制度とすることにらみつつ、より具体的かつ詳細な検討を行っていきたいと考えております。新人研修プログラムの地域歯科界への周知・理解が拡がり、歯科衛生士会が中心となってその研修を担い活用してもらうことで、会の必要性、重要性への認識も進んでいくものと思います。

## 【日衛学会専門領域別・研究集会のスタート】

今年新潟で開催される第19回学術大会から、いよいよ専門領域別・研究集会がスタートいたします。それぞれの専門に携わる方々に集っていただき、研究に関する情報交換を行うだけでなく、実践の報告も積極的に行っていただき、多様な側面からの発表・討論を通して根拠に裏付けられた実践活動へと結実することができればと考えております。初めての研究集会の開催方法については、学会委員会企画第二委員会で検討していただいておりますので、皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

今後、専門領域別・研究集会の確立と並行して、それぞれの専門領域において、認定歯科衛生士よりも高度な力が求められる専門歯科衛生士の種類、修得すべき能力と教育研修内容を明確化していく

ことが必要です。この専門歯科衛生士を取得することが、医療界のみならず社会的な認知を高め、歯科衛生士のキャリア形成に役立つものにしていきたいと考えております。

## 【国際交流】

昨年は本会と韓国の歯科衛生士会の交流が復活した年でした。7月に開催された大韓歯科衛生士協会(KDHA)学術大会にお招きいただき、「日本における歯科衛生士の歴史と役割および日本歯科衛生士会の取組み」と題する講演をさせていただきました。9月の日衛学会では、KDHAのファン・ウンスク会長をご招待し、「韓国歯科衛生士の過去と現在、そして未来」と題する講演を行っていただきました。とても気さくな方で親交を深めることができました。参加者の皆様にとって、両国における歯科衛生士をめぐる制度、業務内容や教育制度の違いなどについて知り、参考とする良い機会となったのではないかとうか。本年7月11~13日には、ソウルで歯科衛生国際シンポジウムが開催されます。参加しやすい場所ですので、ぜひ多くの方にご参加、ご発表いただき、世界各国の歯科衛生士と交流していただければと思います。

2024年の干支は「甲辰」です。「甲辰」は成功という芽が成長していき、姿を整えていく年のことです。本会の活動も、新たな取組みの芽を大切にじっくり育て、安定的なものに整えていきたいと考えております。本会事業の発展は、人びとへの口腔健康支援を通じた健康寿命延伸、QOLの維持向上に貢献するとの信念のもと、役員一同、力を合わせて頑張っていきたいと思います。今年の取組みも、本会の会員増加と会員の皆様のご理解、ご協力なくしては達成することができません。皆様の一層のご協力をお願い申し上げるとともに、ますますのご活躍を祈念して、年頭所感とさせていただきます。

**令和6年能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。**

義援金については口座を開設し、ウェブサイトおよび歯科衛生だより会報80号（4月1日発行）などでご案内予定です。

# 令和5年度 認定歯科衛生士セミナー開催報告

認定歯科衛生士委員会

令和5年度認定歯科衛生士セミナーは、昨年同様オンライン開催と一部のコースでは集合型開催とした。講義はすべてのコースで決められた期間内で受講者のタイミングで繰り返し動画が視聴可能なオンデマンド配信を行った。ライブ配信研修では、特別講演の視聴やオンライン上でのグループワークを取り入れ、集合型研修では、会場に受講生が一堂に会して講義を受け、講師に直接質問をする光景も見られた。さらに、演習や、グループワークを行い、対面研修ならではのメリットを活かすことができた。

認定歯科衛生士の取得に向けて、セミナーの受講をお考えの方は、ぜひご一読いただき、参考にしていただきたい。

## 生活習慣病予防

(特定保健指導—食生活改善指導担当者研修)コース

本コースは、オンデマンド配信(28.5時間)を9月1日(金)～10月18日(水)、ライブ配信(研究討議3.5時間)を10月21日(土)に実施し、39名が受講した。

オンデマンド配信では、医師、歯科医師、保健師、管理栄養士の先生方から健康づくり施策の考え方と進め方、生活指導およびメンタルヘルスケア、栄養指導、健康教育、運動の基礎科学について講義を行った。

研究討議では、居住地や家庭環境などを考慮し、より多くの会員の受講を可能とするために本年度もライブ配信にて開催した。生活習慣病予防指導の事例動画2例を視聴し、講師からの指導後に受講者が来談者・指導者役となって模擬指導の実施および「食生活指導時に来談者から必要な情報を収集するために配慮すべき点」についてグループごとにまとめを行った。模擬指導の実践を踏まえて「家族や仕事等の生活背景の話は特に配慮が必要である」、「このように質問されると答えやすい」など、受講者一人ひとりが自分事化し、来談者に寄り添った活発的な意見交換となった。



10月21日(土)ライブ配信(研究討議)の様子  
受講後アンケートでは、オンラインによる開催について「とても良かった」が半数以上となり、「全国の歯科衛生士が受講できることがあるがいい」など、賛成の意見が多く寄せられた。その一方で「オンラインは利点も欠点もあり、学習意欲、モチベーションの継続が難しい」といった意見もあったため、来年度の課題として、受講者にとってより良い認定セミナーとなるよう検討を重ねていきたいと考える。

(委員 小西 由美)

## 摂食嚥下リハビリテーションコース

本コースは、オンデマンド配信を9月1日から11月4日、集合型研修を11月3日、認定テストを11月5日に実施し40名が受講、受験した。新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年度、4年度はオンラインでの認定セミナーであったが、5月8日より感染症法上の位置付けが5類感染症に引き下げられたことにより、今年度は演習については集合型研修で実施した。

4年ぶりに再開した集合型研修は1日でのプログラムで、オ

ンデマンド配信された講義を受講していることを前提に、演習による知識の確認、さらに知識を深めること、また仲間づくりを目的とした。「摂食嚥下訓練」では相互演習で間接訓練の手技の確認と直接訓練の介助方法や姿勢調整を行い、「リスクマネジメント・経鼻吸引」では喀痰吸引演習用の人形を使用し諸器官の解剖を復習しながら手順を確認後、相互に鼻腔からカテーテルを挿入する演習で患者の体験もした。「歯科衛生ケアプロセス(歯科衛生過程)」ではその手法を用いグループワークで症例検討を行った。それぞれにおいて受講生からの質疑応答も多く、時間はタイトであったが真剣かつ和気あいあいと活気に満ちていた。事後アンケートではオンデマンド講義の満足度とともに集合型研修の満足度および理解度においてほぼ100%に近い評価であった。

現在、本会では専門歯科衛生士の検討がなされている。認定歯科衛生士を基盤として設計されるため、多職種と協働場面の多い本分野はより認定歯科衛生士のレベルを上げていく必要があると思われる。認定保有者がさらに研鑽し、指導可能なレベルに到達できるキャリア連鎖を期待したい。

(委員 柴田 享子)

## 在宅療養指導・口腔機能管理コース

本コースは、前期をオンデマンド配信、後期を集合型で開催した。認定研修の開催方法がコロナ禍で変わり、今年度はオンデマンド配信と集合型での開催となった。前期のオンデマンド配信は全9項目で14.5時間、講師も医師、歯科医師、訪問看護師、ケアマネジャー、管理栄養士と多職種の先生方から在宅療養と口腔機能に関わる情報と知識を学んだ。その情報と知識を活かすために開催されたのが、集合型研修会である。集合型は実に3年ぶりの開催となり、グループワークに取り組んだ。グループワークは阪口 英夫先生から提示された症例について、飯田 良平先生のご講義でKJ法を学びながら、歯科衛生ケアプランについて考えるものである。受講生はそれぞれの症例に対して問題点を考え、優先順位や緊急性をふまえて意見を出しつつ介入方法を検討し、模造紙にケアプランを作成した。ケアプラン



を考えることは、歯科衛生士同士が1つの症例に対して意見を出し合って協力しながら最良のものを考えるだけではなく、コミュニケーションを図って取り組んでいた。集合型研修は同じ会場でディスカッションができ、臨床の悩みを相談したりコミュニケーションを直接図ったりすることができるのが魅力である。受講生44名全員が欠席や体調不良になるとなく2日間開催できたことは、開催者だけではなく受講生やその周りの関係者など、多くの方の協力がなくてはできなかったことである。この場を借りて心よりお礼を申し上げたい。

令和6年度は前期をオンデマンド配信、後期を集合型、趣向を凝らして会場を大阪(予定)にて開催予定である。

(委員 金子 信子)

### 糖尿病予防指導コース

本コースは、昨年度に引き続き今年度も徳島大学歯学部の協力のもと、ライブ研修とオンライン研修で実施された。プログラムは糖尿病予防の歯科保健指導および管理に関する専門的知識・技術を習得し、地域社会に貢献できるよう医学的、歯学的な知識と歯科保健学的技能を習得することを目標として組まれた内容である。9月10日に実施した前期ライブ研修は、徳島大学の松山美和先生によるアイスブレイクから始まった。次いで「糖尿病とその予防で学習したいこと」をテーマにZoomのホワイトボード機能を用いたグループワークを行った。使い慣れないホワイトボードを駆使しながらも各グループからの意見がまとめられた。オンライン研修では、後期のライブ配信に向けて11項目の講義を視聴し、11月12日に後期ライブ研修を実施した。後期は、日本歯科医師会で作成された「生活歯援プログラム」のツールを用いて歯科保健指導のプラン作成に挑んだ。午後は九州大学の西村英紀先生より教育講演が行われ、セミナー全過程を終了した。

今回、43名の受講生が6グループに分かれてライブ研修を行ったが、遠方から通わなくても学習ができるという利点がある一方で通信が上手くいかない、誰かに頼れないという欠点もある。本会も受講生に十分な対応が取れず反省する部分もあり、次年度からは一部対面を検討している。受講生の皆様、本当に疲れさまでした。

(委員 水上 美樹、原口 公子)

### 医科歯科連携・口腔機能管理コース

本コースは、前期オンライン研修(7月1日～7月29日)、ライブ配信(7月30日)、後期研修:病院見学(7月31日～8月28日)で開催された。コロナウイルス感染症や台風接近の影響が懸念されたが、今年度も無事に後期研修を集合型で開催することができた。全国から20名が本研修を受講した。

前期オンライン研修では、まず医科歯科連携に必要な基礎知識を学ぶため、外科医師、脳血管外科医師、放射線科医師、歯科医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師などさまざまな職種から、幅広い視野での講義を配信した。

その内容を踏まえて、ライブ配信ではZoomを使用し、舌がんの放射線療法症例について、周術期など口腔機能管理における専門的口腔衛生



処置計画の立案をグループワークで行い、症例を検討した。一度、グループで検討し、発表したのちに、問題点や意見について再度検討・発表を行つたことで、より症例についての理解を深めた。オンラインではあったが、一日かけて活発なグループワークが行われていた。

後期研修では、4班に分かれて、各5名のグループで1日間、東京歯科大学市川総合病院の見学実習を行った。歯科・口腔外科外来や口腔がんセンターにて、がん患者の口腔健康管理の実際を見学した。またNST回診に参加し見学することで、チーム医療における歯科衛生士の役割を確認した。さらに、病院に併設されているスキルラボにて、シミュレーターを用いた咽頭吸引実習、頸部および胸部の呼吸音聴診実習を行い、周術期等口腔機能管理を行う上で必要な知識・技術を習得した。研修終了後、受講者からは学びが多く、充実した見学が行えたとの声が多くあつた。

(委員 中田 悠)

### 歯科医療安全管理コース

本コースは、オンライン研修講義が8月5日(土)～9月3日(日)、オンラインワークショップライブ配信が8月26日(土)、8月27日(日)の2日間で実施された。

今回で3回目のセミナーであったが、定員を大きく上回る応募があり、今年度は35名の歯科衛生士が受講を修了した。

オンライン研修講義で知識を学修し、その知識を活かしてオンラインワークショップ(ライブ配信)でのレクチャーやグループワークを行った。臨床現場における医療安全(感染含む)のワークショップ(以下: WS)では、アイスブレイクの後、各受講者が経験した『最近犯した愚かな間違い』を事例に話し合い、その中の1つをグループごとに発表した。感染防止対策に関するWSでは、グループごとにテーマが与えられ、オーディット\*を作成し発表することで、様々なオーディットを理解した。また、このオーディットは自施設で活用できるものである。事例から学ぶ医療安全対策のWSでは、与えられた事例について各グループで分析・改善策を検討し、多様な視点からの医療安全体制の組織づくりの重要性を学んだ。

本セミナーを受講することでより一層、医療事故防止対策と感染防止対策の意識を高め、医療安全管理を実践でき、指導していける歯科衛生士が増えていくことを期待したい。

\*オーディット: 内部監査。医療での監査対象は診療・記録方法および機器・環境・システム管理など。

(委員 中岡 美由紀)

# 令和5年度 歯科保健事業功労者 厚生労働大臣表彰



松本 りか 様

(公益社団法人 熊本県歯科衛生士会)

「第44回全国歯科保健大会」において表彰を賜り身に余る光栄です。ご推薦いただきました熊本県歯科衛生士会、あわせてご尽力いただきました関係者の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

昭和61年より熊本市の職員として、幼児健診はじめ各ライフステージにおける歯科保健指導や8020推進員の育成および地域活動支援などに携わり、平成19年からは熊本県歯科衛生士会理事としても活動しています。

歳を取れば歯が無くなることが当たり前な時代から、予防歯科の時代に変化し、住民の意識も大きく変わってきたと感じています。「人生100年時代」、歯科衛生士は食べること、会話すること、全身疾患予防などに深く関わり、重要な役割を担う職種であると思います。今後も微力ではありますが、歯科衛生士会に貢献できますよう精進してまいります。



第44回全国歯科保健大会受賞証書



青森県歯科衛生士会青森支部

第44回全国歯科保健大会において団体の部で表彰を賜りました。これもひとえに、設立当時から、むし歯予防デー(現在の歯と口の健康週間)行事などで地域住民への歯みがき指導やフッ化物歯面塗布・フッ化物洗口など、歯と口の健康の重要性の普及啓発にご支援賜りました歯科医師会の先生方や諸先輩方のおかげと感謝申し上げます。青森県歯科衛生士会設立50周年を迎えた記念の年に賞を頂いたことにより重ねて喜ばしい年になりました。

今後も、先輩方から引き継いだ市町村の乳幼児健診・高齢者向けの通いの場・特別支援学校や施設・職場での歯科衛生講話など各年代における歯と口の健康の重要性の普及啓発に、後進を育成しながら継続していきたいと思います。誠にありがとうございました。  
(青森県歯科衛生士会 青森支部長 濱田 咲美)

厚生労働大臣表彰 団体の



# 令和5年度 健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰 功労者表彰

今年度から「こども家庭庁」が発足し、「厚生労働大臣表彰」から「内閣府特命担当大臣表彰」となりました。



竹澤 美智子 様

(公益社団法人 埼玉県歯科衛生士会)

「健やか親子21全国大会」において表彰を賜り誠に光栄に思います。この受賞は、私ひとりの力だけではなく良き先輩方のご指導や多くの仲間に恵まれたお陰だと思っております。ご推薦いただきました埼玉県歯科衛生士会ならびにご尽力いただきました皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

昭和55年に歯科衛生士の資格を取得してから気がつけば43年の月日が経とうとしています。歯科衛生士として活動していく中で、多くの方々と会話を学びながら成長させていただきました。

この受賞を励みにこれからも歯科衛生士会の仲間とともに多職種連携を図り、情報の共有をしながら地域の方々の歯と口腔の健康づくりに貢献できますように、皆様のお力添えをいただきながら今まで以上に努力を重ね邁進していく所存であります。心から感謝申し上げます。



第44回全国歯科保健大会受賞証書



富手 由歌里 様

(一般社団法人 岩手県歯科衛生士会)

このたびは「令和5年度健やか親子21全国大会」にて表彰の栄誉を賜りましたこと、身に余る光栄に存じます。推薦にあたりご尽力いただきました岩手県歯科衛生士会のみなさまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

出産を機に地域の乳幼児健診業務に携わり、幅広い世代の口腔保健の指導の場に関わってまいりました。尊敬する諸先輩方の姿に刺激を受け、仲間と切磋琢磨する良い環境に恵まれて、気づけば30年という長い年月を重ねてきたように思います。

今回の受賞を励みにこれからも学びを深め、微力ではございますが活動してまいります。これまで導いてくださったみなさまに深く感謝申し上げると共に、更なるご指導の程よろしくお願ひいたします。



第44回全国歯科保健大会受賞証書



小前 みどり 様(母子保健推進会議推薦)

(公益社団法人 兵庫県歯科衛生士会)

このたび、令和5年11月に栃木県宇都宮市で開催の「健やか親子21全国大会」において、内閣府特命担当大臣表彰を賜りました。身に余る光栄であり、感謝申し上げます。

私は、昭和53年に兵庫県入庁以来45年間、健康福祉事務所(保健所)や県庁で子どものむし歯予防から高齢者のオーラルフレイル予防など、生涯にわたる歯と口の健康づくりの推進に携わってまいりました。令和元年から4年間、日本歯科衛生士会の理事として地域歯科保健委員会の仲間と共に、地域での歯科保健活動の推進に取り組む貴重な機会を頂戴しました。

改めて関係の皆様にお礼申し上げます。少子高齢化、人口減少の時代を迎え、微力ではありますが、今後も歯と口の健康づくりの普及啓発に精進してまいります。



第44回全国歯科保健大会受賞証書



## 藤沢歯科衛生士の会・スマイル

この度、令和5年度健やか親子21全国大会において、健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰功労者表彰(団体)を受賞し、誠に光栄に存じます。

当会は、日本歯科衛生士会に所属する歯科衛生士の会で、乳幼児から高齢者までを対象に、歯・口の健康を守るための普及啓発活動を行っています。むし歯が増加する学童期への健康教育として、市と協働し企画、内容の検討を行い、放課後児童クラブへ、夏休み等の長期休暇を利用し活動をしています。毎年テーマを決め、歯・口の大切さを楽しみながら理解してもらえるよう、内容、媒体など、工夫を凝らしており、指導員や保護者の方々にも大変喜ばれております。歯・口の重要性を早い年代で理解してもらい、一生自分の歯で食べられるよう、多くのお子さんにこれからも歯科保健教育が展開できるよう取り組んでいきたいです。

(藤沢歯科衛生士の会・スマイル 会長 若尾 美知代)



## 就業歯科衛生士数について -令和4年衛生行政報告例の結果より-

厚生労働省より令和4年末現在の就業歯科衛生士数について発表がありました。全国の歯科衛生士数は145,183人で、前回(令和2年末)の142,760人から2,423人の微増となりました。詳細なデータについては、厚生労働省ウェブサイト(令和4年衛生行政報告例(就業医療関係者))の概況: <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/22/>)で公開されています。

### 1 都道府県別就業歯科衛生士数

(単位:人)

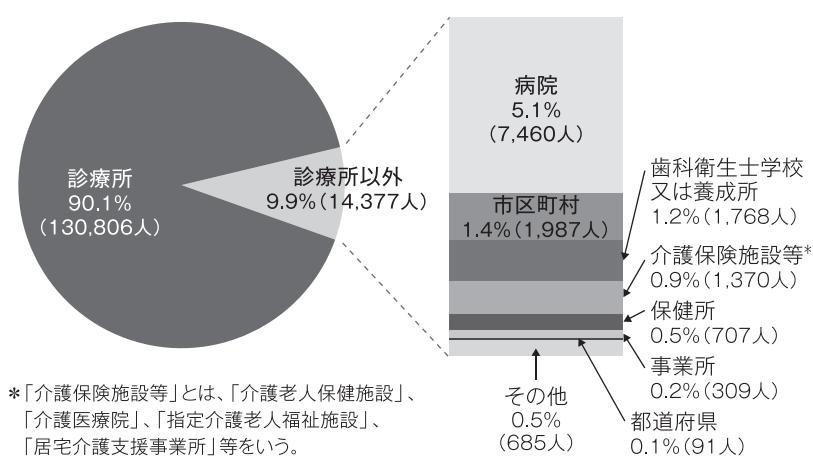
| ブロック   | 全 国 | 145,183 |
|--------|-----|---------|
| 北海道・東北 | 北海道 | 6,501   |
|        | 青 森 | 916     |
|        | 岩 手 | 1,104   |
|        | 宮 城 | 2,286   |
|        | 秋 田 | 1,067   |
|        | 山 形 | 1,221   |
|        | 福 島 | 1,660   |
| 関東信越   | 茨 城 | 2,603   |
|        | 栃 木 | 1,992   |
|        | 群 馬 | 2,351   |
|        | 埼 玉 | 4,438   |
|        | 千 葉 | 5,931   |
|        | 東 京 | 15,832  |
|        | 神奈川 | 9,453   |
|        | 新潟  | 2,840   |

| ブロック |       |        |
|------|-------|--------|
| 東海北陸 | 富 山   | 1,177  |
|      | 石 川   | 1,154  |
|      | 福 井   | 734    |
|      | 山 梨   | 1,089  |
|      | 長 野   | 2,725  |
|      | 岐 阜   | 3,139  |
|      | 静 岡   | 4,326  |
| 近畿   | 愛 知   | 7,794  |
|      | 三 重   | 2,187  |
|      | 滋 賀   | 1,519  |
|      | 京 都   | 2,603  |
|      | 大 阪   | 10,699 |
|      | 兵 庫   | 6,841  |
|      | 奈 良   | 1,675  |
| 九州   | 和 歌 山 | 1,044  |

| ブロック |     |       |
|------|-----|-------|
| 中国四国 | 鳥 取 | 844   |
|      | 島 根 | 928   |
|      | 岡 山 | 2,961 |
|      | 広 島 | 4,051 |
|      | 山 口 | 1,651 |
|      | 徳 島 | 1,315 |
|      | 香 川 | 1,711 |
| 沖縄   | 愛 媛 | 1,678 |
|      | 高 知 | 1,014 |
|      | 福 岡 | 7,255 |
|      | 佐 賀 | 1,300 |
|      | 長 崎 | 2,284 |
|      | 熊 本 | 2,677 |
|      | 大 分 | 1,620 |
| 都道府県 | 宮 崎 | 1,529 |
|      | 鹿児島 | 2,060 |
|      | 沖 縄 | 1,404 |

### 2 就業場所別にみた就業歯科衛生士

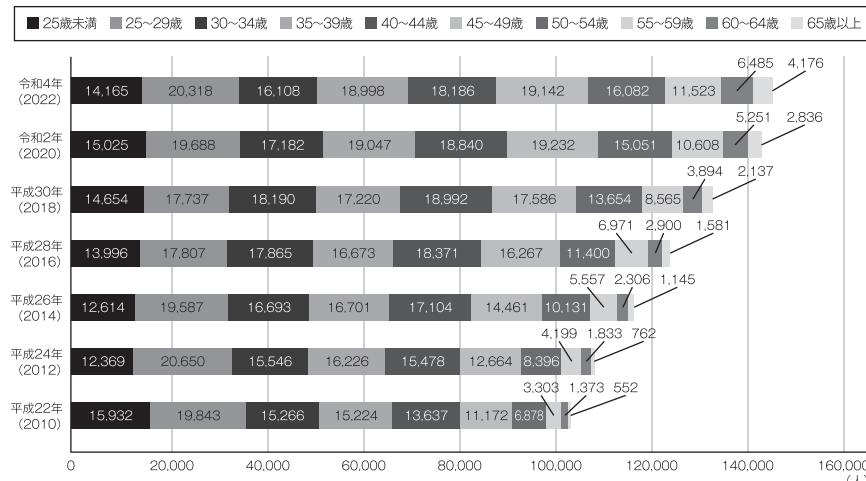
就業場所別では、「診療所」が最も多い130,806人(90.1%)、「診療所以外」は14,377人(9.9%)でした。前回の結果と比較すると、「診療所以外」の就業者数が1,375人増加しており(前回比11%増)、その中でも「歯科衛生士学校又は養成所」の就業者数が762人増(前回比76%増)と顕著に増加していました。



### 3 年齢階級別にみた就業歯科衛生士の年次推移

令和4年の就業歯科衛生士数を年齢階級別にみると、50歳以上の割合が、過去最高の26%になりました。2010年の結果(人数)を基準とすると、「50~54歳」では2.3倍、「55~59歳」では3.5倍、「60~64歳」では4.7倍、「65歳以上」では7.6倍と、いずれも大きく増加しました。

このことから歯科衛生士が長期に渡って働ける職種になってきたことが示唆されました。



本稿の図表は公開された厚生労働省のデータより作成いたしました。

(広報委員会 須永 昌代)

### ブロック連絡協議会開催報告

#### 北海道・東北ブロック(山形県) 一般社団法人 山形県歯科衛生士会 副会長 村越 友子

令和5年11月4日(土)～5日(日)北海道・東北ブロック連絡協議会および研修会を、山形グランドホテルにて対面で開催した。日本歯科衛生士会からは吉田直美会長、岡田昌子専務理事、長岐祐子ブロック理事をお迎えし、各道県会からの参加者、山形県歯科衛生士会理事を含め総勢24名が参加した。

初日の協議会では、開会後に吉田会長、山形県歯科医師会の土門宏樹会長、長岐祐子ブロック理事よりご挨拶をいただいた。土門会長は当初挨拶のみの予定であったが日本歯科衛生士会からの情報提供もお聞きになりたいとのことで、情報提供終了後に退席された。日本歯科衛生士会からの情報提供として吉田会長より、「専門歯科衛生士制度について」「学会活動について」「厚生労働省への本会の要望と令和6年概算要求」など9項目についてご講演いただいた。続いて、各道県の総会資料による定例報告、事前記載による近況



報告と情報交換、協議を行った。その後、北海道・東北ブロック連絡協議会細則により次年度以降のブロック連絡協議会担当県を確認し、次年度担当の福島県歯科衛生士会の丹野直子会長よりご挨拶をいただき、1日目は終了した。

2日目の研修会では、長岐ブロック理事の進行のもと各グループが発表まで、予定通り終えることができた。

最後に、日本歯科衛生士会、各道県会の皆さんには準備の段階からご協力いただき、ブロック協議会を終了できたことに心より感謝申し上げる。

#### 関東信越ブロック(山梨県)

#### 一般社団法人 山梨県歯科衛生士会 会長 永井 鈴美

令和5年10月29日(日)日本歯科衛生士会の吉田直美会長、岡田昌子専務理事、石川博美ブロック理事をお迎えし、1都9県27名の参加を頂き総勢30名にて4年ぶりに対面式での協議会が開催された。

吉田会長より日本歯科衛生士会からの情報提供として「歯科衛生士専門制度」の構築段階の状況と展望、「歯科衛生士人材確保」に向けての在り方と方策、現在、国に要望していること、今後、職能団体として改革していくことなど多岐にわたり力強く講演していただいた。また石川ブロック理事より組織委員会からの情報提供を頂いた。

次に、協議会に入り、各都県会より提出された19題の協議事項をとおして情報共有が午前の時間いっぱいまでなされ、対面で意見交換を行う協議の充実感を感じるものとなった。

午後からのブロック研修はテーマ『人材促進にむけて』と題し、小田部英勝先生(一般社団法人日本イベント産業振興協会認定研究員)を講師として70分間のビデオを聴講した。その後、3つの課題(①復職者に入会してもらうには、②新卒者に入会してもらうには、③未入会の勤務歯科衛生士に入会してもらうには)に沿いグループワーク・発表を行った。どのグループでも活発なディスカッションがなされ、それぞれの会に持ち帰り、今後の活動のヒントを得たブロック研修会であった。

最後に関東信越ブロック連絡協議会開催にあたり、皆様のご協力に深く感謝申し上げる。



## 東海北陸ブロック(愛知県)

公益社団法人 愛知県歯科衛生士会 会長 金森 いづみ

令和5年11月19日(日)愛知県歯科医師会館において、東海北陸ブロック連絡協議会を4年ぶりに対面で開催した。日本歯科衛生士会から、河野章江副会長、岡田昌子専務理事、渡邊理沙ブロック理事、ブロック7県から会長、副会長が参加した。

出席者の紹介の後、河野副会長から「専門歯科衛生士制度」など日本歯科衛生士会の最新情報について、渡邊ブロック理事から「入会案内スライド」「第5次生涯研修制度」について説明があった。その後、各県会から「専門歯科衛生士制度」「常勤理事」「指導者等講習会」に関する質問があり、河野副会長から回答があった。河野副会長には次の予定がある中で、時間ぎりぎりまで対応していただき深く感謝申し上げる。

ブロック研修会は、協議会参加者以外も参加できるようハイブリッド方式で開催した。時間を有効に活用するため、昼食をとりながら講演録画を視聴し、その後4グループに分かれ、入会促進に向けてグループワークを行った。「新卒者」「診療所で働く未入会者」について検討し、「養成校との連携」「SNSの活用」「歯科医師会との連携」「魅力的な研修会開催」などの意見が出された。参加者の意見交換、まとめ、発表と全てタイムスケジュール通りに進み、滞りなく終了した。最後に岡田専務理事から企画内容、そして参加者の熱心な意見交換についても「東海北陸ブロックらしさが出ていてよかった。」との総評があった。

皆様の協力のもと無事開催できたことにお礼申し上げる。次年度は石川県で開催する予定である。

## 近畿ブロック(奈良県)

一般社団法人 奈良県歯科衛生士会 会長 米田 衣代

令和5年11月26日(日)、近畿ブロック連絡協議会を開催した。日本歯科衛生士会から吉田直美会長、吉福美香ブロック理事をお迎えし、近畿2府4県の役員26名が参加した。

最初に、吉田会長より歯科衛生士が社会から認められ質を保証するための専門歯科衛生士制度確立について詳しくご説明いただいた。また、国への要望事項、学校・歯科医院を巻き込んだ歯科衛生士会入会戦略指南など多岐にわたりお話しいただけた。吉福ブロック理事からは、入会案内スライド、デンタルショー・歯科医学会など参加プロジェクトとインスタグラムについてご説明があった。後半は、府県会に交付されるブロック連絡協議会強化費の活用方法について協議した。最後に吉田会長に、歯科衛生士の事業単価の考え方について聞かせていただいた。歯科衛生士会が守ろうとしているのは口腔の健康であり、歯科衛生士の生活でもあることを地域で伝えていく必要性を再認識できる貴重な時間となった。

午後からの研修は40名の参加となり、小田部英勝氏による講演「入会促進のために」を視聴後、「新卒者・復職者・診療所などで働く未入会歯科衛生士」の入会促進に向けてグループワークを行った。前半は、府県会混合の6グループに分かれてアイデアを出し合い、後半は府県会別に分かれ、前半のワークアイデアを参考にして実現できること、したいことを6W2Hにてまとめた。短い時間ながら、活発な意見交換から多くのアイデアをいただいたので、今後に活かしていきたい。

最後に、皆様のご協力のもとにブロック連絡協議会が無事終了したことを心より感謝申し上げる。



## 中国四国ブロック(山口県)

一般社団法人 山口県歯科衛生士会 会長 今田 千恵美

令和5年10月22日(日)中国・四国ブロック連絡協議会が、日本歯科衛生士会より吉田直美会長、松浦あづさブロック理事、9県から18名のご参加をいただき、当会会員も合わせて総勢28名で秋吉台国際芸術村にて開催された。先の3年間、コロナ禍ということでWeb開催であったが、今年度は、念願の現地開催が実現した。

各県会の紹介に始まり、吉田直美会長からは「地域全体で歯科衛生士を育てるこを念頭に、周りを巻き込むことの重要性」また「歯科医や学校に、衛生士会に入会するほうが良いと思ってもらえるように働きかけることの重要性」「高度な専門性を持つ歯科衛生士の育成」など、多岐にわたり、とてもわかりやすく楽しくご教授いただいた。今後の会運営の方向性を改めて考える機会となつた。

協議会では南海トラフ地震を念頭に、まずは災害支援経験者の体験談を伺った。その後、各県会で準備・検討すべき事項の抽出、改善・更新すべき事項の検討を行い、発表を通して情報交換することができた。

次回は、災害歯科保健ブロック研修をブロック協議会と同時開催ができないかとの提案があったが、災害担当が県会の会長・副会長とは限らないため、少しでも負担が減るようにと交通の便を考慮し開催県を広島県ではなく岡山県で実施するように提案した。

1泊2日の開催であったこともあり、一気にブロック県会の皆様との距離が近づいた有意義な研修会であった。最後に開催県として、参加者の皆様の多大な協力と寛容なお心のお陰で、無事に終了できたことに心より感謝している。

## リーフレット「人生100年時代の歯科受診とセルフケア」を作成しました

人生100年時代のお口の健康を守るために奮闘している歯科衛生士の皆様が、歯科受診とセルフケアの関係について説明する際にご活用ください。今回、最後の8作目となりました。

2018年から制作にご協力いただいたサンスター株式会社様に心から感謝申し上げます。

(日本歯科衛生士会 診療所委員会)



各種資料・刊行物DL

# 日本歯科衛生学会 第19回学術大会開催のお知らせ

2024年9月に新潟県で開催する第19回学術大会は、9月21日(土)から23日(月・休)の会場開催と10月中旬開始予定のオンデマンド配信を組み合わせたハイブリッド開催方式で準備を進めています。詳細については、第19回学術大会ホームページ(2月公開予定)を随時ご確認ください。日本歯科衛生学会公式X(旧Twitter)でもご案内してまいりますので、フォローをお願いします。皆様のご参加と、発表演題のご応募をお待ちしています。

**開催日程** 会場開催: 2024年9月21日(土)~23日(月・休) オンデマンド配信: 2024年10月中旬開始予定

**開催場所** 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

**演題申込方法** インターネットによるオンライン登録

**大会ホームページ** <https://jsdhm.jdha.or.jp/19th/>



**演題受付期間** 2024年3月1日(金)~4月15日(月)  
13:00まで



公式X(旧Twitter) @jsdh\_official

## 2024年度 歯科衛生臨床研究助成の公募について

本研究助成は、国民の歯科口腔保健の推進に寄与することを目的として、株式会社YDMの協賛により行っています。

応募については、右記事項を確認のうえ、日本歯科衛生士会ホームページから実施要領、応募書類をダウンロードし、2024年4月25日(木)必着で日本歯科衛生士会事務局へ郵送で申込みを行ってください。

審査を行い、助成決定者には、5月末日までに通知し、7月末日までに助成金を支給いたします。

**本研究助成を受けた方は、研究終了後、研究報告書、会計報告書の提出、日本歯科衛生学会学術大会での発表および日本歯科衛生学会雑誌への論文投稿を行っていただきます。**

- 1 研究期間: 2024年4月1日~2025年3月31日
- 2 2024年度指定研究テーマ「口腔健康管理」
- 3 研究助成者: 1名
- 4 助成金支給額: 30万円
- 5 応募締切日: 2024年4月25日(木)必着
- 6 応募書類、実施要領等は、日本歯科衛生士会ホームページ <https://www.jdha.or.jp> からダウンロードしてください。
- 7 申込みおよび問い合わせ先  
日本歯科衛生士会事務局 学会担当  
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19  
TEL: 03-3209-8020 Email: gakkai@jdha.or.jp

### Linking JDHA to IFDH

#### 『International Journal of Dental Hygiene』



本会では、国際歯科衛生士連盟が発行する学術誌「International Journal of Dental Hygiene(IJDH)」を購読しています。会員の皆様にはIJDHが無料公開されているウェブサイトに直接アクセスできるように、最新号の2次元コードを公開いたします。

有料の部分については、IJDHを本会で閲覧することができます。国際協力委員会までお申込みください。(FAX 03-3209-8023)

### 国際歯科衛生誌

### 2023年11月 第21巻4号

本号は12編の原著論文を中心に構成されています。そのうち7編はオープンアクセスとなっており、無料での閲覧が可能です。日本の歯科衛生士からの投稿はありませんでしたが、本号の傾向として歯科衛生士学生に対する教育に関する論文が多数掲載されておりました。臨床に従事する歯科衛生士のみならず教育機関に所属する方々にとって有意義な情報が得られると考えられます。

(国際協力委員会 委員 松田 悠平)



## 理事会報告

令和5年度第4回理事会が令和5年12月2日(土)に開催された。審議事項および報告事項は次のとおりである。

### 審議事項

- (1) 令和5年度歯科衛生推進フォーラム及び都道府県歯科衛生士会長会について
- (2) 令和6年度ブロック連絡協議会、ブロック研修実施要領について
- (3) 日本歯科衛生学会 第19回学術大会について
- (4) 令和6年度事業計画の概要(案)について
- (5) 令和6年度認定歯科衛生士セミナー実施計画(案)について
- (6) 令和6年度「地域歯科衛生活動」事業の助成について
- (7) 令和5年度補正予算について
- (8) 諸規則整備委員会の設置について
- (9) 生涯研修委員会委員の委嘱について
- (10) 新入会員の承認について
- (11) 日本頸関節学会との講習会について
- (12) 第27回感染症予防歯科衛生士講習会実施要領(案)について
- (13) その他

### 報告事項

- (1) 会務報告
  - ① 業務執行理事等の職務執行報告 ② 常務理事会の報告
  - ③ 常任委員会等の報告
- (2) 第18回学術大会報告
- (3) 令和5年度第1回「歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修等事業」運営協議会

- (4) 正智深谷高等学校キャリアプロジェクト「訪問学習」への対応
- (5) 令和6年度理事会等の開催日
- (6) 機関紙会報およびカラー版の一部のウェブサイト掲載場所の移動及び機関紙  
カラー版の記事内容(本会ロードマップ・専門歯科衛生士など)
- (7) 情報セキュリティ委員会の進捗状況
- (8) 助成金対象経費基準表
- (9) 厚生労働省との介護報酬に関する打合せ
- (10) 日本ブレイスによる賞味期限切れサンプル付き無償教材配布の件
- (11) 診療所委員会編集サンスターリーフレットの進捗状況
- (12) 賠償責任保険の保険請求実績
- (13) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定
- (14) 歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会修了者への調査
- (15) 第18回国民医療推進協議会総会
- (16) 日本歯科専門医機構主催  
第3回「さらなる歯科専門医制度の充実のためのワークショップ」参加
- (17) 広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センター運営委員会への陪席者の派遣
- (18) 令和5年度広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センター運営委員会報告
- (19) 令和5年度千葉県歯科衛生士大会参加
- (20) 令和4年度地域歯科保健活動実施状況報告概要(案)
- (21) 日本歯科保存学会認定歯科衛生士審査委員会報告
- (22) 令和5年度都道府県歯科衛生士会への研修支援実施状況
- (23) その他